ninoyu satoshi
発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310
発行人:二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。 題字:栢木寛照

# えとす

平成29年 8・9月合併号
No.297

京都の智恵を日本に活かす。

二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

# 突如降って湧いた国難突破解散
# 自公で過半数の議席なるか

## 油断ならない京都の選挙事情

衆議院はいつ解散があるかわからない。常に選挙に備えておかなければならない。常在戦場と言われるゆえんである。平成26年12月に執行された前回の選挙から約2年10か月が経過しているために、いつ選挙があっても、おかしくないのも事実であるが、常識的には来年であろうと言われていた。それが、予想もしない突如の解散総選挙である。短い、限られた時間の中で、選挙事務所の確保、ポスターはじめ立候補に必要な書類の準備、運動員の手配など、関係者は選挙準備に大忙しである。安倍首相はなぜこの時期に、解散総選挙の決断をしたのか。森友学園、加計学園問題で大きく下がった内閣支持率も回復しつつあり、民進党はじめ野党の選挙準備が遅れている時期を狙ったと言われている。それだけでは、大義なき解散と批判されるのも事実である。安倍首相は消費税増税分を教育の無償化に当て、財政再建を先送りする。核・ミサイル開発を進める北朝鮮へ強硬な対応をとる。そのために国民の信を問うと記者会見で表明した。現時点の世論調査では、自民党が優勢と伝えられているが、選挙に近づけば、マスコミは大義のない選挙、改憲勢力の阻止などと報道を展開する可能性もある。特に京都の選挙の行方は分からない。

記者会見で解散総選挙を表明する安倍首相

## 恒心

★日本人の平均寿命は、男性81才、女性87才となり、男女とも世界で最高となった。終戦直後の、男性50才、女性53才と比較すると、まさに隔世の感がある。寿命はさらに延びて人生100才までも夢ではない。★日本は超高齢化時代を迎えた。町を歩いていても、電車に乗っていても、高齢者が多い。元気はつらつとしている人もいるが、杖や、シルバーカー頼りに歩いている人の姿もよく見かける。★寿命は延びたが、健康で、誰の助けもなく生活できる健康寿命となると、日本社会は決して自慢できるものではない。いつまでも健康で、死ぬ直前までしっかり、人生を楽しみたいというのが理想である。それには、どうしたら良いのか、誰しも考えることである。★常に病院に行き自分の健康状態を把握することが大事だと考える人、いやそれよりも運動をして体を鍛え、健康を維持することが必要であると思う人、まちまちである。私は健康診断もするが、運動をして普段から体を鍛えることが重要だと思っている。★今年の5月、長浜で元滋賀県知事の國松善次氏にお会いし、話をする機会があった。氏は今年80才であるが、見るからに若々しく、「今もフルマラソンに挑戦している。そして、自転車に乗って、全国中を走り回っている」と、自らの健康を吹聴されていた。★80才の氏が、走り、自転車を使って活動しておられる姿に触発され、私も何かしようと考えた。思いついたのが、徒歩による琵琶湖一周である。琵琶湖の周囲は約235kmといわれている。20回ぐらいに分割して歩く計画を立てた。7月中旬から始め、8月末に終えることができた。これも國松さんとの出会いのお陰である。

厳しくなる日本の安全保障環境

## 時宜を得た平和安全法制

### 北朝鮮問題は日本への現実の脅威である

北朝鮮による核ミサイル開発は、急速に進歩しているようである。グアム島の米軍基地、そしてアメリカ本土にまで到達可能な大陸間弾道弾の完成も時間の問題だと言われている。北朝鮮は口を開けば、アメリカを厳しく非難し、アメリカを攻撃できる軍事力を持つことも可能だと再三表明している。今のところ、トランプ大統領は軍事力による強硬な手段を取らず、国連安全保障理事会を通じて、北朝鮮に影響力のある中国、ロシアなどに働きかけ、経済制裁を強めている段階である。しかし今は慎重な手段で北朝鮮に圧力を強めているトランプ大統領であるが、北朝鮮がますます増長し、アメリカへの危機が現実になり始めた段階で、最終手段として軍事力行使に踏み切るかも知れない。北朝鮮も反撃し、米朝が本格的に戦うことになるのは必至である。北朝鮮軍によるアメリカ海軍の駆逐艦への攻撃、日本にある米軍基地への攻撃も覚悟しておかなければならない。同盟国（アメリカ）への第3国（北朝鮮）からの攻撃が、我が国の安全保障にとって死活的に重要な場合、自国への攻撃とみなして、我が国も武力の行使をはじめ、あらゆる手段を使って、同盟国を助けなければならない。昨年3月に野党の強い反対の中で成立させた平和安全法制は、今日のような事態を想定していたのである。正直なところ、この法律によって、自衛隊が同盟国を助けるために武力を行使する機会が早く来るかも知れない。そういう事態になれば、いくら法律に基づいて行動をしても、国内からは、もっと話し合うべきだ、戦争に巻き込まれると、猛烈な反対の声が沸き起こるであろう。

### 自衛隊予算の充実強化が必要

北朝鮮問題で最も深刻な影響を受けるのは、どこの国であるのか。アメリカか、韓国か、それとも日本なのか。当然、韓国であり、日本である。隣国に好戦的で、何を考えているのかよくわからない指導者がいる国が存在することは、両国にとって、恐ろしい脅威であり、枕を高くして眠ることができない。従って、今の段階で我が国独自で核を保有するべきだとは思わないが、北朝鮮の核、ミサイルに対する抑止力を当然持つべきであると思う。それには、現在の防衛予算では充実した防衛力を構築することはできない。国民総生産（GDP）比率では、フランスは2・3％、ドイツでは1・2％を防衛費に使っている。日本は1％であり、これでは北朝鮮の軍事力への抑止力を高めることはできない。世界の先進国の、軍備への予算の実情をよく説明し、この未曾有の危機の時に自衛隊予算の充実を図るべきである。この点を、先の通常国会で二ノ湯議員は安倍首相に強く迫った。総選挙でも安倍首相は国民に理解を求めるべきである。

# 自民党京都府連公認候補決定　2、5区に新人候補擁立

自民党京都府連では、党本部からの指示により、全選挙区の公認候補者の選定作業を急ぎ、26日に、党本部に上申した。1、4、6区は前職、2、5区は新人、3区は前職であるが、京都選挙区での選挙は初めてである。

## 3区　木村 弥生（きむら やよい）

■選挙区
京都府第3区
京都市（伏見区）、向日市、長岡京市、乙訓郡

■当選回数
1回

■生年月日
昭和40年8月11日

## 2区　繁本 護（しげもと まもる）

■選挙区
京都府第2区
京都市（左京区・東山区・山科区）

■当選回数
初出馬

■生年月日
昭和47年12月26日

## 1区　伊吹 文明（いぶき ぶんめい）

■選挙区
京都府第1区
京都市（北区、上京区、中京区、下京区、南区）

■当選回数
11回

■生年月日
昭和13年1月9日

## 6区　安藤 裕（あんどう ひろし）

■選挙区
京都府第6区
宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、久世郡、綴喜郡、相楽郡

■当選回数
2回

■生年月日
昭和40年3月28日

## 5区　本田 太郎（ほんだ たろう）

■選挙区
京都府第5区
福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、与謝郡

■当選回数
初出馬

■生年月日
昭和48年12月1日

## 4区　田中 英之（たなか ひでゆき）

■選挙区
京都府第4区
京都市（右京区・西京区）、亀岡市、南丹市、船井郡

■当選回数
2回

■生年月日
昭和45年7月11日

## 谷垣氏次期総選挙に出馬せず
### 怪我癒えず政治活動を断念

昨年7月16日、自転車による事故により、頸椎損傷を負い、治療に専念していた谷垣禎一衆議院議員は、来るべき衆議院選挙に出馬せず、政界を引退する決意を固めた。怪我から1年以上が経過し、病状がどうなっているのか家族の者以外、全く分からない状態であった。リハビリに専念し、順調に回復していると谷垣氏の弟信行氏は語っていたが、誰も谷垣氏に会っていないため、それが真実かどうか疑心暗鬼が生じていたことも事実であった。先日、谷垣氏の側近議員が、谷垣氏に面談した際、谷垣氏は元気で、声も力強く、秋にも召集される臨時国会には出席できると明言していたが、実際は、臨時国会に顔を見せることは無理であると信行氏は語っていた。しかし、来年の通常国会後半には、登院できるのではないかと、本人は意欲を燃やしていた。ところが、安倍首相が突如解散すると表明したために、現段階では、たとえ選挙に当選しても、議員としての活動をすることが出来ないと判断し、政界から勇退することを決意した。権力にしがみつき、ぼろぼろになっても政治家を続けたい議員が多い中で、谷垣氏の潔い勇退は、爽やかな印象を与えている。大蔵大臣、野党時代の総裁、安倍総裁の下での幹事長等、政府、党の要職を歴任した谷垣氏の悲運な引き際は誠に残念である。

## 谷垣禎一衆議院議員から二之湯府連会長宛てのメッセージ

自民党京都府連では、谷垣禎一衆議院議員が次期総選挙に出馬しないとの表明を受けて、後継の人選をするために、9月22日に緊急の会議を開いた。弟の信行氏に会議への出席を求め、昨年の怪我以来の経過を説明し、今回の出馬辞退を決断した谷垣氏の気持ちを述べてもらいたいと要請したが、それが叶わず、谷垣議員からのメッセージが二之湯会長に寄せられた。会議の冒頭に、二之湯会長から出席者に披露した。

前略　昨年の怪我以来、京都府連の皆様にはご迷惑とご心配をおかけしてまいりました。心からお詫び申し上げます。さて、近く衆議院の解散・総選挙が行われる動きが進んでおります。私はこの選挙に立候補せず身を引くことを決意いたしました。正式には解散決定後に発表いたしたく存じますが、後任の候補者選定を急ぐために京都府連にご報告申し上げることにいたしました。後継の候補者については京都府連で選定していただきたいと考えております。解散直前でのお願いでご迷惑をおかけいたしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

草々

平成29年9月21日

谷垣禎一

自由民主党京都府支部連合会会長
二之湯　智先生

## 谷垣さんの引退に想う
### 昭和58年夏暑い最中の補欠選挙
### 死に物狂いの野中・谷垣陣営

昭和56年7月に前尾繁三郎先生が亡くなった。その2年後、谷垣専一先生が逝去された。それに伴い京都2区では、補欠選挙が行われることになった。前尾陣営からは、野中広務先生、林長禎元京都市会議長が名乗りを上げた。谷垣陣営からは希望者がなかった。専一先生は選挙の厳しさを知っていただけに、2人の息子に跡を継がせることに反対していたと聞いていた。自民党の2人の失われた議席を取り戻さなければならないという声が谷垣後援会、京都経済界を中心に大きくなってきた。そこに白羽の矢が立ったのは禎一氏であった。父親の遺言でもあったのか、最初は断り続け、頑として承諾しなかった。とうとう断り切れず、禎一氏は出馬せざるを得なくなった。建て替え前の京都ホテルで出馬の記者会見が行われた。私は会見の様子を見に行った。当時谷垣さんは37才の若さ、スマートな青年で、淀みなく発言する谷垣さんを見て、手強い相手が出てきたものだと警戒心を抱いた。その時、私は野中先生の陣営に参加することを決めていたからである。補欠選挙は真夏の暑い時であった。当時の共産党の勢力を考えれば、自民党の2人公認は無謀に等しかった。双方の事務所は、絶対に負けられないと猛烈に運動を繰り広げた。野中陣営には、竹下登氏、谷垣陣営には宮沢喜一氏、加藤紘一氏が陣頭指揮をとり、まさに田中派と宏池会の代理戦争と言われた。石破茂氏が、運動員として野中事務所で働いていたのも懐かしい。戦後の選挙史上、これ以上激しい保守同士の戦いはなかったのではないか。結果は天の配剤で、強敵共産党を押さえ、自民党が2議席を独占した。その後、お2人とも順調に党内で要職を重ねられ、党の重鎮となられた。補欠選挙から34年の時間が経過した。野中先生は既に政界を引退、今度は谷垣先生。時代の変遷をつくづくと感じる。

参議院議員　二之湯　智

父親専一氏、前尾繁三郎先生の遺影に
初当選の報告をする谷垣さん

# 奥田氏城陽市長に再選
## 相手候補寄せ付けず圧勝

9月3日に告示された城陽市長選挙は、現職で自民、公明、民進推薦の奥田敏晴氏と共産推薦岡本やすよ氏の一騎打ちの戦いとなった。支援政党、支持基盤の厚さから、奥田氏の優位は揺るがないと予想されていた。現職有利な情勢の中での選挙戦であったが、奥田陣営は市民の選挙への関心の低さによる低投票率によって、思わぬ番狂わせが出ないとも限らない、しかも1対1の戦いとなると、かなりの批判票が相手候補に流れる可能性があると、投票結果を心配していた。蓋を開けて見れば、案ずるより産むが易しで、現職奥田氏が相手候補の約3倍近くの票を獲得し、堂々と3選を果たした。新市街地の整備は着々と進み、新名神のスマートインターチェンジの開設、大規模なアウトレットの進出などが決まっている。今や、城陽市は発展著しい京都府南部の中心市となりつつある。市長として、まさにやりがいのある時期である。旧市街地の整備を含め、21世紀を見据えた大胆な都市計画を奥田市長の手によって描いて、実行してもらいたい。

出陣式で激励の挨拶をする
二ノ湯自民党京都府連会長

## 「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

**新政経懇話会**

**年会費　1口1万円**

入会申込・お問い合わせ先

**二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228**

## 身辺雑記

一、安倍改造内閣がスタートした。実務者揃いで、先ずは無難な人材の登用である。参議院議員同期から、中川雅治環境大臣が誕生した。大蔵省理財局長、環境事務次官の経験者だけに、難しい環境行政もそつなくこなすことだろう。

一、国連の北朝鮮に対する経済制裁案が満場一致で採択された。生命線である石油の輸出は除外されたが、北朝鮮にとっては、かなりのダメージになることは明らかである。それでも核・ミサイル開発は止めないだろう。厄介な国である。

一、9月13日で満73才を迎えた。ぼつぼつ同級生の死亡が出てくる。先日も田舎の幼馴染が亡くなった。昔なら、天寿に近い年齢であるが、今は早すぎる死である。健康な間に、やるべきことはやっておかないと、考えるこの頃である。

一、野党第1党とは言え、政権を担える可能性が全くない民進党の代表選挙は、国民の関心も低く、盛り上がりに欠けた。前原誠司氏が選ばれたが、同床異夢の人達の集りの政党だけに、代表も苦労の多いことだろう。

一、民進党の山尾代議士は自民党国会議員の不倫問題を厳しく追及していた。その人が弁護士と不倫関係にあったことを「週刊文春」に暴かれ、党を離党した。「天に向かって唾を吐く」、「目糞鼻くそを笑う」と言う諺を思い出した。

一、陸上競技の桐生選手が、日本人として初めて100mで10秒を切った。洛南高校時代に颯爽としてデビューしたが、ここ数年、彼の影が薄くなっていただけに、喜びもひとしおだろう。100mで東京オリンピックに出場出来ることを期待したい。

## 二ノ湯議員徒歩で琵琶湖一周に挑戦
### 20回に分けて達成

二ノ湯議員は、日頃から健康のために、1日1万歩を歩くことを目標にしている。歩くことはそれほど苦にならない。恒心にも書いたが、元滋賀県知事・國松善次氏の元気な姿を見て、暑い時ではあったが、7月中旬から8月下旬にかけて、琵琶湖を歩いて1周することを考えた。琵琶湖の周囲は約235km。仕事の関係もあり、この距離を1～2日で歩くことはとても無理である。そのために、1日10～12kmを目安にした。琵琶湖の周囲には、湖岸道路が整備されていない区間もある。したがって山道を歩くこともある。いくつかのトンネルも通り抜けた。歩道のない道もあり、車に気を付けなければならない。都会では当たり前のコンビニもない所が多い。奥琵琶湖の集落に行った時、食堂を探すのに苦労した。歩くことによって、色々なことに気付き、大変勉強になった。同時に自分自身の体力にも自信が持てた。

最終回の出発地
北陸本線JR木ノ本駅

最終到達地
道の駅湖北みずとりステーション